



体験プログラムで地域活性化に取り組む ～斑鳩町商工会～

奈良県北西部にある斑鳩町の歴史は、飛鳥に都があった607年、聖徳太子がこの地に法隆寺を建立したことに始まる。

町内には1993年12月に日本で初めてユネスコの世界文化遺産登録を受けた法隆寺、法起寺をはじめ中宮寺、法輪寺、吉田寺など由緒あるお寺が多く、飛鳥文化の宝庫となっている。

■「いかるがキャンパス PROJECT」

～おとなの修学旅行～

斑鳩町への観光客は年間約98万人とも言われているが、その内の90%が法隆寺に集中している。そこで、斑鳩町商工会をはじめ会員事業所や行政、観光協会が一体となって、「法隆寺以外の斑鳩も知ってもらおう!」「ここでしかできない体験を通して少しでも長い時間を過ごしてもらおう!」と、『いかるがキャンパス PROJECT』に取り組んでいる。

その昔、聖徳太子は法隆寺を中心とする斑鳩の地を「学びの場」として位置づけた。その思いを引き継いで「おとなの修学旅行」を通して、旅行者に「学びと美」をコンセプトとした、知的好奇心を満たす体験プログラムを用意した。

聖徳太子が母である穴穂部間人皇后の為に創建した尼寺、中宮寺では本尊の国宝「菩薩半跏思惟像」の古典的微笑と言われる美しい清らかなほほえみに癒されて、心静かに写経を体験することができる。



「中宮寺」

他にも互職人による「瓦講座」、約1000年前から『綿々』と受け継がれてきた昔ながらの「糸車」を使った手紡ぎ体験などのプログラムが用意されている。

■「竜田揚げ上げ↑プロジェクト」

「竜田揚げ」の名前の由来が、古^{いにしえ}よりもみじの名所としてその名が知られる「竜田川」にある。醤油や生姜、酒に漬け込んだ鶏肉を揚げる際に醤油が赤くなり、ところどころに片栗粉が白く浮かぶ様子が、竜田川に落ちた紅葉が流れる様に見立てられたところから、その名がついたと言われている。ところが、この「竜田揚げ」の由来については、地元町民でも知っている人が少なかった。そこで、竜田揚げを斑鳩町から発信することで「奈良県斑鳩町をさらに全国にPRしたい」という思いから同商工会青年部の有志が集まりプロジェクトを立ち上げた。

竜田揚げを斑鳩のソウルフード(郷土料理)にするべく、町内の取扱店の認定や、県内外の様々なイベントへの参加・出店、土産・ギフト等の商品開発に精力的に取り組んでいる。



「竜田川」と「竜田揚げ」



■「まち歩き観光」で地域活性化

かつて斑鳩は、日本仏教の中心地となり文化、産業、経済から思想に至るまで、当時のあらゆる最先端のものが日本中から集められた。時を越えた今でも、ここには古の時代から変わらずに受け継がれてきたものがある。1400年前の人々が見たであろう夕日、感じたであろう風を、そして「和」の心を今再び「斑鳩の地」で感じて欲しいとの願いを込めて、同商工会は新しい組織の「一般社団法人未来づくり斑鳩」と共に地域活性化を目指す。

万葉の浪漫が大人の好奇心を刺激し、歴史を肌で感じながら過ごす時間の贅沢を、より多くの人々が味わってくれることを期待したい。(奥 桂子)